

平成29年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、志望する国公立大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満 <b>【判定B】</b>	後期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は50%であった。内訳は、「ねらい」53%、「熱意や工夫」56%、「説明や指示」50%、「考えさせる場面」57%、「興味・関心」35%である。前期と比較して、平均が4ポイント向上したが、「興味・関心」の評価も31%から4ポイント向上した。次年度も引き続き、生徒の学習意欲が高まる授業の実践に努めたい。
	② 授業や総合的な学習の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (7) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (4) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (9) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (5) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。  (7)+(4)の合計が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 <b>【判定A】</b>	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、3教科の肯定的な回答の平均は、前期の60%から69%に向上した（英語：前期62%→73%、数学：前期65%→71%、国語：前期54%→63%）。グローバル社会において自ら考え、課題を発見し、それを解決するリーダーを育成するため、主体的に考え、行動することの大切さを今後も普段から生徒に意識させたい。
		家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 <b>【判定C】</b>	4月～1月（8月を除く）の学習時間調査において、目標値（1年2時間以上、2年3時間以上）に達した1・2年生の9ヶ月の平均は、49%（1年64%、2年33%）であった。前期の57%よりも8ポイント下降している。地道に家庭学習に取り組めるよう、より小刻みな学習目標を立てさせ、学習に計画性を持たせたい。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	1年次12月に受検したGTECの本校平均スコアに比べ、1年後の2年次12月に受検するGTECの本校平均スコアの伸びが、 A 60点以上 B 50点以上 C 40点以上 D 40点未満 <b>【評価D】</b>	現2年生において、1年次のトータルスコア455.8が2年次には488.4となり、スコアの伸びは32.6点にとどまった。3技能の内訳を見ると、リスニングが21.4点伸びているのに対して、リーディングとライティングの伸びはそれぞれ10点未満にとどまっている。今後もスピーキングを含めた4技能のバランスのとれた英語教育を心がけていきたい。
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず ※ア（難関大10名以上）、イ（金沢大60名以上）、ウ（国公立大180名以上） <b>【評価B】</b>	合格者数は、難関大学15名、金沢大学44名、国公立大学189名であった。難関大学に挑戦する生徒が増える一方で、地元金沢大学合格者は伸び悩んだ。1年次からの意識付けをしっかりと行い、志望校に合格できる学力をさらにつける必要がある。
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	週1日以上の日を有する部活動が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 <b>【判定A】</b>  下校時刻を遵守している生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 <b>【判定B】</b>	部活動顧問に対してアンケート調査を行った結果、後期もすべての部活動で週1回以上の休養日を設定していた。休養日の設定は、生徒が学習と部活動の両立を図るために不可欠であり、教員にとっては働き方改革に直結し、教員としての資質向上にもつながるものである。今後も部活動の適切な運営に努めたい。  生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、遵守している生徒は93%（「よくあてはまる」が46%、「ほぼあてはまる」が47%）であった。前期は78%（「よく」53%、「ほぼ」25%）であり、15ポイント向上した。今後も指導をしっかりと継続したい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において、生徒が考える場面をしっかりと設定するとともに、思考・判断とその前提としての知識・理解とのバランスを大切にしたい。</li> <li>GTECにおいて、リーディングとライティングのスコアが伸びていないことが気になる。</li> <li>すべての教科において、「授業を受けて、興味・関心が高まる」という項目の評価が低い。授業の導入を大切にしたい。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTのさらなる活用を図り、知識の定着を図りながら、生徒が考える時間を確保していく。</li> <li>英語については、高大接続改革の流れを踏まえ、スピーキングやリスニングも含めた4技能のバランスの良い育成に今後も努める。</li> <li>教員自身が興味あることを掘り下げていくことによって生徒の興味・関心を高めることができる。教員にも興味を大切にさせたい。</li> </ul>		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識など人としての基本を身に付けた、心身ともに逞しい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に挨拶をしている</li> <li>・きちんとした頭髪・服装をしている</li> </ul> この2つの点について (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない  (ア)の%が A 40%以上 B 35%以上 C 30%以上 D 30%未満  <b>【判定D】</b>	生徒、保護者、教員対象の後期学校評価アンケートの結果、平均は29%であり、内訳は、生徒42%、保護者28%、教員17%であった。前期の21%から8ポイント向上したが、まだまだ改善していかなければいけない。生徒には、挨拶は社会生活の基本であることを地道に訴えかけていくと同時に、普段から挨拶しやすい明るい校風を確立していけるよう全教職員で力を合わせたい。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒は、自転車に乗車するときは交通ルールを (ア) いつも守っている (イ) だいたい守っている (ウ) あまり守っていない (エ) ほとんど守っていない  (ア)の%が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満  <b>【判定C】</b>	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、「いつも守っている」との回答は51%であった。前期より5ポイント向上した。交通ルールを守るとことは自らの命を守ることにつながる。命の大切さ、交通ルールを守ることの大切さを改めて訴えていきたい。
	③ 生徒の健全な心を育み、一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる、明るくさわやかな校風の樹立をさらに進める。	本校は学習における悩みや人間関係（いじめ等）に関する悩みを相談しやすい (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない  (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満  <b>【判定C】</b>	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、「わからない」という回答が、前期と同じく29%であった。「相談しようと考えたことがない」、あるいは「答えたくない」、と考えた生徒がこの回答となったと思われる。そのこともしっかりと意識しながら、(ア)～(エ)の有効回答における割合を求めたところ、「よくあてはまる」は30%（「わからない」を含めると21%）、「ほぼあてはまる」は45%（同32%）で、計75%（同53%）が肯定的な回答をしている。評価は判定Cとするが、次年度以降は、「相談しようと考えたことがない」という生徒でも相談するときのイメージをもとに回答しやすいよう質問を工夫したい。今後も相談しやすい環境作りを進めていきたい。
	④ 生徒面談シートを活用し、PDCAサイクルを意識させた面談を行い、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	1・2年生において、家庭でのスマートフォン使用時間が1時間以内であるという生徒が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満  <b>【判定D】</b>	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、使用時間が1時間以内という生徒は36%（1・2年それぞれ、30分以内が7%、7%、30分～60分が30%、28%）であった。前期の38%から2ポイント下降している。スマートフォン等は非常に便利ではあるが、高校生にとっても時間は有限であり、その中でどれだけ学力を付けられるか、どれだけ部活動で競技力や協調性を身に付けられるか、を優先して考えるべきであることを強調していきたい。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	年間貸出冊数が A 1500冊以上 B 1250冊以上 C 1000冊以上 D 1000冊未満  <b>【判定A】</b>	今年度の図書館貸出冊数はのべ1775冊であり、昨年度の1232冊を上回り、判定Aとなった。今後も図書館講座や図書館報『桜蔭』を通して生徒に読書の魅力を訴えかけていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「悩みを相談しやすい」という項目において、「わからない」という生徒の回答が依然として多い。回答の意味合いについては検討を要する。</li> <li>・挨拶について、特に教員の評価が向上している。</li> <li>・本校は自転車通学の生徒が多く、事故や事故が起こったときの生徒の対応が心配である。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「悩み」について、答えたくないために「わからない」を選択した生徒がいることも踏まえて、今後とも相談しやすい環境作りに努める。</li> <li>・登校時の挨拶運動等、今後も粘り強く指導を継続したい。</li> <li>・事故の未然防止のために1年生対象の交通安全教室を開き、事故が起こった場合はすぐに警察に通報するよう指導している。今後も指導を徹底していく。</li> </ul>		

重点目標	具体的取組	現状の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等															
<p>3 校是「文武両道」を實踐するため、教員自らが資質向上に励み、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。</p>	<p>いしかわニュースーパーハイスクールとして                      (ア) 共通理解があり、しっかりと学校運営がなされている                      (イ) ある程度共通理解があり、学校運営がなされている                      (ウ) あまり共通理解がない状態で学校運営がなされている                      (エ) 共通理解がない状態で学校運営がなされている</p> <p>(ア)の%が                      A 40%以上 B 30%以上                      C 20%以上 D 20%未満</p> <p>【判定C】</p>	<p>教員対象の後期学校評価アンケートにおいて、「共通理解があり、しっかりと学校運営がなされている」との回答は、前期と同じで23%であった。「ある程度共通理解がある」との回答は前期よりも3ポイント増えて、71%であった。大きな枠組みでは教職員の共通理解があると思われるが、全教職員を巻き込んだの学校運営及びいしかわニュースーパーハイスクールとしての取組を一層進め、今後の改善につなげていきたい。</p>															
	<p>② 校内研修会をより充実させ、今日的課題の理解とそれに対応する教員の資質を高めるとともに若手教員の早期育成を目的とした研修を行う。</p>	<p>取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた                      (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる                      (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない</p> <p>(ア)+(イ)の合計が                      A 80%以上 B 70%以上                      C 60%以上 D 60%未満</p> <p>【判定A】</p>	<p>教員対象の後期学校評価アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」の合計は94%であり、前期より3ポイント向上した。内訳はそれぞれ38%、56%であった。9月以降の校内研修としてはiPadに関する内容を全体研修で扱ったほか、若手グループを中心に教科指導や学級経営について優秀教員から学ぶ研修等を行っている。今後もOJTを意識し、日々の教育活動に役立つアドホックな研修を充実させていきたい。</p>															
	<p>③ 部活動の活性化を通して、競技力や技能の向上に努めるとともに、生徒の自主性や自立心の育成を図る。</p>	<p>北信越大会以上の大会に参加した部活動が                      A 15以上 B 12以上                      C 10以上 D 10未満</p> <p>【判定B】</p>	<p>8月の全国総体及び全国総文を含め、本年度に入り、北信越大会以上の大会に参加した部活動は運動部9（卓球、男子テニス、陸上競技、柔道、剣道、空手道、弓道、水泳、ラグビー）、文化部4（吹奏楽、文芸、放送、新聞）、合計13であり、全国コンクールで入賞した美術部（黒板アート甲子園；入賞）も含めると該当の部活動は14となる。全体として部活動は活発に行われていると考えられ、今後もさらに集中力を高めることによって文武両道を追求していきたい。</p>															
	<p>④ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭と学校との連携を更に深める。</p>	<p>本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が                      A 4500名以上 B 4300名以上                      C 4000名以上 D 4000名未満</p> <p>行事 PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式</p> <p>【評価C】</p> <hr/> <p>年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が                      A 20万件以上 B 18万件以上                      C 16万件以上 D 16万件未満</p> <p>【判定A】</p>	<p>3月の卒業式を終えて来校者数（協力者数）は4042名である。これからも学校行事の充実を図るとともに、学年便りやメール配信等を利用して本校行事に対する保護者への周知を図りたい。                      ※桜高祭の来校者数には保護者以外に同窓生等の数も含まれている。</p> <table border="1" data-bbox="1429 1034 2078 1129"> <tr> <td>PTA総会及び学年別懇談会</td> <td>512名</td> <td>1・2年保護者進路説明会</td> <td>459名</td> </tr> <tr> <td>桜高祭</td> <td>1255名</td> <td>学校公開(教育ウィーク)</td> <td>64名</td> </tr> <tr> <td>3S歩行(含協力者会議)</td> <td>944名</td> <td>入学式</td> <td>358名</td> </tr> <tr> <td>卒業式(3/2実施)</td> <td>450名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>4月から1月19日までの本校ホームページへのアクセス数は200987件であり、昨年度に続いて20万件を超えた。今後も迅速で、充実した情報の提供に努めたい。</p>	PTA総会及び学年別懇談会	512名	1・2年保護者進路説明会	459名	桜高祭	1255名	学校公開(教育ウィーク)	64名	3S歩行(含協力者会議)	944名	入学式	358名	卒業式(3/2実施)	450名	
PTA総会及び学年別懇談会	512名	1・2年保護者進路説明会	459名															
桜高祭	1255名	学校公開(教育ウィーク)	64名															
3S歩行(含協力者会議)	944名	入学式	358名															
卒業式(3/2実施)	450名																	
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・いしかわニュースーパーハイスクールとしての共通理解や学校運営については、「ある程度」を含めて判断してもよいのではないかと。                      ・働き方改革の一環として部活動の時間がこれまでに比べ制限されても、いろいろな面で支障が出ないようにしてほしい。</p>																	
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・「よくあてはまる」にこだわる必要がある項目と、「ある程度」を含め、肯定的な回答の割合を見る項目を精査し、改善していく。                      ・部活動の時間が制限され、これまでより生徒の自由になる時間が増えるが、家庭で主体的に、学習等に取り組むよう授業改善や課題の内容の検討を進めたい。また、部活動を含め、指導の質がより向上するよう努める。</p>																	